

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國 其他

對

荒木貞夫 其他

宣誓供述書

供述者 河邊 虎 四郎

自分儀我國ニ行ハルル方式ニ從ヒ先ツ別紙ノ通り宣誓ヲ爲シタル上次ノ如ク供述致シマス

供 述 書

私（河邊虎四郎）ハ一九三四年（昭和九年）ニ被告土肥原ト最初ニ知合ニナリマシタ。其ノ時彼ハ滿洲奉天特務機關長デアリマシタ。當時私ハ關東軍參謀ノ職ニ在リマシタ。コノ職ニ私ハ一九三四年（昭和九年）八月ヨリ一九三六年（昭和十一年）三月迄在リマシタ。此ノ度私ハ職務上屢々土肥原大將ニ接スル機會ガアリマシタノデ私ハ彼ノ職務執行方法ニ親シクナリ且ツ又彼ノ個人的立脚點ヲ親シク知り而シテ口支關係ニ關スル彼ノ觀點ヲ知ルニ至リマシタ。私ノ觀察スル所デハ彼ガ其ノ職務ヲ遂行スルニ當リ誠實デアリ、彼ノ出ス公ノ報告ニ取扱ハレル事ヲ誇張シタリ。曲シタリスル業ヲ事ハアリマセンデシタ。彼ハ日本人ノ支那人ニ對スル行動ニ就イテ彼自身ノ感情ヲ表明スルニ躊躇シマセンデシタ。嘗テ我々ガ彼ニ「支那人ニ對スル心掛」ト言フ口目デ演説ヲスル事ヲ依頼致シタコトガアリマス。此ノ演説ハ後達將校ノ爲ニサレタノデアリマスガ其ノ際彼ガ其ノ講話ノ結論トシテ述べタ次ノ言葉即チ「日本人モ支那人モ何ノ區別ハナイ。人ニ接スルニ最モ大切ニシテ且ツ己

レノ意志ヲ先方ニ篤ト諒解セシムル爲最善ノ方法ハ唯ダ一ツ誠實之アルノミ
ト言ハレタコトヲハツキリ今日マデ記憶シテ居リマス。彼ハ日本及ビ支那ノ兩
國ニ最モ爲ニナルコトハ兩國々民ガ相互ニ理解シ合フコトデアルト言フ意見
ヲ持チ且ツ私ニ表明致シマシタ。彼ハ日支兩國間ノ問題ハドレーツトシテ戰
争デ解決出來ルトハ信ジナカッタ。其レドコロカ兩國間ノ戦争ハ日支兩國ノ
國民ヲ益々離間サセルダロウト彼ハ信ジテ居リマシタ。又私ハ自ラ彼ガ戦争
ノ勃發或ハ支那ニ對シテ武力ヲ示ス事ニ反對シテ居ツタ事ヲ知ツテ居リマス。
土肥原大將ガ陸軍航空總監時代、私ハ日本航空總監部總務部長トシテ彼ノ下
デ勤務致シテ居リマシタ。彼ハ私ノ直屬上級士官デアリマシタ。本期間中ニ
私ハ航空總監ノ職務及ビ責任ヲ篤ト知ルニ至リマシタノデ之等ノ點ニ關シテ
次ノ觀察ヲ供述致シタイト思ヒマス。陸軍航空總監ハ天皇ニ直屬シ其ノ職務
ニ關スル限りニ於テ陸軍大臣ニノミ從屬シテ航空總監ハ其ノ第一ノ職務トシ
テハ専門的教育ヲ掌ツテ居リマシタ。而シテ陸軍航空本部長ハ資材ノ整備、
補給等ニ關シテ陸軍大臣ニ隸屬致シテ居リマシタ、ケレドモ、其等ノ何レモ

ガ作戦事項ニ參畫スル權限ハ全ク無ク戰爭デ武力ニ關スル作戦或ハ計畫ニ關
與スルコトハ不可能ニサレテ居リマシタ。私ハ航空總監及ビ航空本部長ニ就
テ述べマシタガ其等ノ地位ハ個々別々ノ地位デアリマシタ。

土肥原大將ノ地位ヲ明瞭ニスル爲ニ私ハ此等ノ二ツノ地位ノ間ノ命令關係ヲ
説明スル事ヲ最善ノ方法ト考ヘマス。而シテコノ二ツノ地位ニ土肥原大將ハ
同時ニ在任シタノデアリマス。

陸軍航空總監ハ専門ノ教育事項ニノミ關係シ計畫及ビ作戦事項ニハ關係ガナ
カッタノデアリマス。而シテコノ地位ノ土肥原大將ハ天皇ニ直屬シテ居リマ
シタ。陸軍航空本部長トシテハ、命令系統ハ陸軍省ヲ通シ天皇カラ航空本部
長ノ土肥原大將ニ傳リマシタ。此ノ地位デ彼ハ航空隊ノ補給ニ關スル若干ノ
職務ヲ持ツテハ居リマシタガ計畫及ビ作戦事項ニハ參畫致シマセンデシタ。
土肥原大將ガ教育總監當時、私ハ彼ノ下ニ働イテ居リマセンデシタガ然シ私
ハ前ニ其ノ總監部ト緊密ナル關係ガアツタノデ、私ハ其ノ機能及ビ責任ヲ熟
知シテ居リマス。

教育總監ハ航空ノ専門事項ヲ除イテハ全陸軍ノ種々ナル教育並ニ軍所轄諸學
 校ノ統轄指導ヲ爲スヲ以テ其ノ諸責トナスノデアリマシタ。然シ乍ラ彼ハ如
 何ナル計畫或ハ作戰事項ニモ參畫スル權限ヲ有セズ且ツ實際問題トシテ參畫
 セズ又陸地ニ於ケル軍ノ計畫及ビ雜戩ニ關スル如何ナル決定ニモ絶對的ニ發
 言權ヲ持ツテ居リマセンデシタ。私ノ軍ニ於ケル多クノ經驗ニ依リ私ハ軍事
 參議官ナルモノヲ熟知致シテ居リマス其シテ土肥原大將ハ嘗テ其ノ一員デア
 リマシタ。軍事參議官ハ軍命令ノ實權アル肝要ナ機關デハナク、寧口名譽職
 デアリ其シテ單ナル軍事ノ諮詢機關デアリ其ノ職務ハ重要軍務ニ付キ天皇ノ
 諮詢ニ奉答スルニアリマシタ

其レハ殆ンド何等實權ナク而シテ實際問題トシテ軍中央ノ主腦部ヨリ一般ノ
 狀勢並ニ軍事的ノ狀勢ニ關スル報告ヲ受取ル機關デアリマシタ。
 土肥原大將ニツイテ私ノ觀察スル所デハ私ハ彼ガ一般政治ニ關與セズ自ラ嚴
 格ニ武人ヲ以テ任ジ、政治ニ携ハルベキトハ考ヘナカッタ事ヲ知ツテ居リマ
 ス。彼ハ屢々此ノ考ヘヲ私ニ表明シ、私ニ一般政治ニ關與セヌ様忠告致シマ
 シタ

彼ガ航空本部長時代ニ於テ政治的意味ヲ有スル民間ノ航空工業ノ諸問題ヲ取扱フ事ヲ餘儀ナクサレタ場合ガアツタ事ヲ私ハ知ツテ居リマスガ此等ノ諸問題ガ發生シタ時、彼ハ唯軍ニ軍ノ立場ヲ固カニシ、其ノ終局ノ目的ト希望ヲ明示シマスケレドモ總テノ具體策等ニ付イテハ民間業者ニ一任シ、彼等ト共ニニ政治的同意ニ固與スル事ヲ拒ケマシタ。私ハ彼ガ政治的術策ヲ授ケタリシテ彼等ヲ援助シタ事ヲ知リマシセシデシタ。寧ロ反對ニ彼ハ殆ド極端ナ程超然トシテ居リマシタ。

私ハ太平洋戦争ニ關スル土肥原大將ノ意見ニ就ツテ何カ知ツテ居ルカト質問セラタ事ガアリマシタ。

此ノ事ニ關シテハ次ノ如ク陳述シマス。太平洋戦争開戦六ヶ月前土肥原大將ガ陸軍航空總監兼陸軍航空本部長トシテ在職中、前述セル如ク、私ハ彼ノ輔佐官タル陸軍航空總監部總務部長ノ職ニ就イタノデアリマス。土肥原大將ハ屢々私ト共ニ色々ノ問題ニ就キ論議シタノデアリマスガ此等ノ論議ヨリ推察シテ私ハ彼土肥原ガ戦争開始ニ到ル迄ノ我國ノ政治的軍事的ノ重要諸問題ニ

就イテ殆ンド何等知ル所ガナカッタ事ヲ知ツテ居リマス

私ガ敢テ斯ク申ス譯ハ戦争勃發直前ニ私ガ形勢ノ逼迫シ悲觀的ニ思ハレル事柄ニ關シテ二三ノ質問ヲ土肥原大將ニ尋ネタノデアリマスガ、~~彼~~ノ質問ノノ意味ニ就イテハ彼ハ何事モ事情ニ通ゼズ却ツテ私~~彼~~ハソレハ如何ナル事カト私ニ質問ヲ爲シマシタ位デアリ此等ノ諸問題ヲ論ジタ後彼ハ私ニ陸軍省ヤ參謀本部カラ我々が任務遂行上必要ト思ハレル知識ヲ得ル爲ニ情報ヲ得テ來ル様ニ私ニ命ジタノデアリマス。

私ハ又土肥原大將ガ獨逸カラ贈與セラレタ勳章ニツキ尋ネラレマシタ。此レハ彼ガ陸軍航空總監ノ時代ニ贈與セラレタノデアリマスガ、私ハ彼ノ部下トシテ彼ガ其レヲ受ケタ時在勤致シテ居リマシタ。私ノ記憶スル處デハ~~彼~~ハ獨逸國政府ヨリノ大十字章ヲ贈ラレマシタ。土肥原大將ガ日獨伊三國同盟強化擴大ノ爲如何ナル政治的活動或ハ其ノ事ニ關スル如何ナル種類ノ行動ヲモ爲シタ事ノ無カッタ事ヲ私ハ自ラ知ツテ居リマシタノデ彼ガ勳章ヲ贈與セラレタ事ニ尤キ我々ハ驚カサレマシタ。當時彼ガ勳章ヲ贈與セラ

レタ理由トシテ我々ニ考ヘラレタ唯一ノ理由ハ彼ガ總監部長デアッタトイ
フ事實ニ歸着致シマシタ
私ハ大將自身勳章ヲ受取ツタ時驚キノ言ヲ發セラレタ事ヲ閃隙ニ記憶シテ
居リマス。

昭和二十二年（一九四七年）十二月十五日 於 東京

供 述 者 河 邊 虎 四 郎

右ハ當立會人ノ面前ニテ宣誓シ且ツ署名捺印シタルコトヲ證明シマス

同 日 於 同 所

立 會 人 太 田 金 次 郎

宣
誓
書

良心ニ従ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セズ又何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

（署名捺印）

河邊
虎
四
郎